

2021年10月26日「令和の日本型学校教育」の実現に向けた通信制高等学校の在り方に関する調査研究協力者会議



学校概要

- 1959年 東海大学附属高等学校通信教育部として開設
- 1960年 東海大学超短波放送実用化試験局（FM東海）開局
- 1963年 東海大学附属望星高等学校として独立
- 2010年 インターネットによる高校通信教育講座の配信開始
- 2021年 新校舎完成（最新のICT環境を全教室に整備）
- 2021年 レポートの電子化開始（ロイロノートを利用）

東海大学の附属高校14校の中で唯一の通信制高等学校



在籍生徒数 [2021/5/1現在]

	1年次	2年次	3年次以上	計
日曜登校（月2回程度）	19	31	59	109
水曜登校（月3回程度）	74 ^[金曜登校]	102	166	342
実施校生徒計	93	133	225	477
	（男44女49）	（男68女65）	（男116女109）	（男229女248）
技能教育施設（9校）	390	352	314	1056
技能教育施設における通信制クラス	0	7	19	26
合計	483	492	558	1533
				（男654女879）

技能教育施設

- (1) 富士調理技術専門学校（静岡県富士市）
- (2) 東海文化高等専修学校（静岡県磐田市）
- (3) 二葉ファッションアカデミー（東京都武蔵野市）
- (4) 安城生活福祉高等専修学校（愛知県安城市）
- (5) 町田調理師専門学校（東京都町田市）
- (6) 広島生活福祉専門学校（広島県安芸郡海田町）
- (7) 岩谷学園高等専修学校（神奈川県横浜市）
- (8) 町田美容専門学校（東京都町田市）
- (9) 国際製菓専門学校（東京都立川市）

教職員数

実施校（東京都渋谷区富ヶ谷）

- ・ 専任教員 26名（養護教諭含む） 非常勤講師17名 計44名
- ・ 専任事務職員5名、臨時事務職員6名 計11名
- ・ その他（司書・学校医・学校歯科医・カウンセラー）

技能教育施設（9校） 教員100名

1年間を【春】【秋】の2学期に分割。
学期ごとに単位を認定。

春学期						秋学期					
学習開始 4月	5月	6月	7月	8月	9月 単位認定	学習開始 10月	11月	12月	1月	2月	3月 単位認定

学習について

自ら考え
自ら学ぶ



学習システム

1. 高校通信教育講座の視聴
2. レポート課題の提出 (添削指導)
3. スクーリングに出席 (面接指導)
4. 期末試験の受験

★すべ
てが連動

★すべ



1. 『高校通信教育講座』を視聴する

- ・ 本校オリジナルの通信講座（1本30分程度）
各科目とも、学期18～20本の講座を毎週配信
- ・ 繰り返し、何度でも視聴できる！



- ・ 「数学Ⅲ」「英語コミュニケーションⅢ」「物理・生物・化学」など大学進学に必要な難易度の高い科目も開講！

学習システム

1. 高校通信教育講座を視聴する



高校通信教育講座

ダイジェスト版

2. レポート課題を提出する



通信講座を視聴して、レポートを作成する



レポートの作成・提出はロイロノートを利用



東京都認可通信教育 東海大学付属望星高等学校 2021年度 春学期 通信指導レポート

地理B① 第1回		学籍番号	地理B①
提出締切	通信担当者: 緑川 祥信	年次・組	年次 組
4月23日		生徒氏名	

2100121

【第2週(4/9 配信)】

① 地形の成因・地球規模の「大地形」(教科書: P.28~)

<内的営力と外的営力>

- ・ _____ ⇒ 「 _____ 」を形成する
- ・ _____ ⇒ 「 _____ 」を形成する

<移動する大陸>

- ・ _____ (A.ウェーファー) による「大陸移動説」が発見したもの
- 地球の表面は十数枚の _____ (約1cmの厚) に覆われている
- それらのプレートは「固定」しているのではなく、「相対運動」している
- このプレートの「相対運動」によって、大陸は「動く」ことになる!

インド半島の動きを確認しよう!
(自分の学習すること)

① _____ : 筑波岩質(火山岩): マグマが急に固まったもので、 _____

② _____ : 花崗岩質(深成岩): マグマがゆっくり固まったもので、 _____

<プレートの境界と大地形>

Ⅰ: ① 海洋プレートが大陸プレートの下へ沈み込む(沈み込み帯) ... _____ を形成
⇒ 大陸プレートのへりには、 _____ や _____ ができる

② 大陸プレート同士がぶつかり合う(衝突帯) ... _____ を形成
⇒ 世界最高峰エヴェレストを築すとマラヤ山脈は代表的な褶曲山脈

Ⅱ: ① 大陸縁にある場合⇒ _____ を形成する ... _____ など

② 大陸上にある場合⇒ _____ を形成する ... _____ など

Ⅲ: ① _____ ・ _____ など

3. スクーリングに出席する

Aクラス（日曜日に登校）

- ・スクーリングは月に2回程度
- ・9：30～16：00まで実施
（5コマ～6コマ実施）
- ・3時間目にHRを実施

Wクラス（水曜日に登校）

※1年次は【金曜日】に登校

- ・スクーリングは月に2～3回程度
- ・9：30～16：00まで実施
（5コマ～6コマ実施）
- ・3時間目にHRを実施



4. 期末試験を受験する



学期末に期末試験を受験し、合格点をとる！



高校通信教育講座とレポートの内容をよく復習しよう！



学期に1回の試験



類	科目	単位数	スクーリング		レポート										テスト		
			実施時間数 〔合格に必要な時間数↓〕	出題者	出題数	レポート提出(受付)締切日										○ テストあり	
						10月	11月		12月		1月		2月				
1	国語総合②	2	1+1+1	[1]	石綿 泰之	6	20	4	17		1	15	6				○
	数学Ⅱ②	2	1+1+1	[1]	古江 昭	6	18	4	15	29		13	6				○
	現代文B②	2	1+1+1	[1]	阿部 光夫	6	20	4	17		1	15	6				○
2	現代社会	2	1+1+1	[1]	名和 優子	6	22	5	19		3	17	6				○
	保健	2	1+1+1	[1]	大嶋 輝也	6	22	5	19		3	17	6				○
	地理B②	2	1+1+1	[1]	緑川 孝浩	6	22	5	19		3	17	6				○
	古典B②	2	1+1+1	[1]	神田 秀樹	6	19	4	16	30		14	6				○
3	数学Ⅰ②	2	1+1+1	[1]	島村 麻希	6	18	4	15	29		13	6				○
	世界史B②	2	1+1+1	[1]	宮崎 泰次	6	22	5	19		3	17	6				○
	古典A	2	1+1+1	[1]	斎藤 陽一	6	19	4	16	30		14	6				○
	数学Ⅲ②	2	1+1+1	[1]	米倉 真一	6	18	4	15	29		13	6				○
4	物理基礎	2	2+2+2	[4]	山下 佳男	6	21	4	18		2	16	6				○
	化学基礎	2	2+2+2	[4]	武政 晃弘	6	21	4	18		2	16	6				○
	生物基礎	2	2+2+2	[4]	輿水 健太	6	21	4	18		2	16	6				○
	世界史A S	2	1+1+1	[1]	椿 友輔	6	18	4	15	29		13	6				○
	日本史A S	2	1+1+1	[1]	北田 邦夫	6	19	4	16	30		14	6				○
	数学活用	2	1+1+1	[1]	中野 寿子	6	18	4	15	29		13	6				○
	数学 B	2	1+1+1	[1]	古江 昭	6	18	4	15	29		13	6				○
	英語Ⅲ②	2	2+2+2	[4]	大谷 光夫	6	19	4	16	30		14	6				○

サポート学習

- スクーリングのない平日・午前中 2 時限
- 希望制

年次	テーマ・内容
1 年次	基礎・基本をマスターしよう!
	高校の学習をスムーズに進められるように基礎を確認します
2 年次	問題演習を重ねて学力UP!
	2 年次の国・数・英は「演習科目」として開講されます
3 年次	進路を定め、合格を目指す!
	大学受験を意識した内容と、演習問題への取り組みをします

登校支援（憩いの広場） 校舎に隣

- ① **オープンルーム**：教室での受講が困難な生徒
（毎年度申請：許可制）
- ② **図書室**：開室日に自由利用
- ③ **カウンセリングルーム**：事前予約によるカウンセリング

※校舎と別棟にすることで、登校の可能性を広げる

※オープンルームと図書室は兼用

※図書室も憩いの場として意義づけ



オープンルーム



月	曜日	教科目の学習時間帯	
		午前	午後
		9:30-11:30	13:00-16:00
10/13	水	家庭基礎 (～11:20) 2/4(2)	社会と情報 2/6(4)
		国語 1/4(1)	理科 2/8(4)
10/17	日	理科 4/8(4)	英語 2/8(4)
			地歴公民 1/4(1)
11/12	金	地歴公民 2/4(1)	国語 2/4(1)
		数学 1/4(1)	
11/21	日	音楽、美術、書道 2/6(4)	体育 2/8(4)
			保健 1/4(1)
12/01	水	数学 2/4(1)	社会と情報(14:00～) 4/6(4)
		英語 4/8(4)	体育 4/8(4)
12/17	金	総合・現代文明論 1/4(1)	保健 2/4(1)
			英語 6/8(4)
12/19	日	国語 3/4(1)	体育 6/8(4)
		総合・現代文明論 2/4(1)	保健 3/4(1)
01/09	日	音楽、美術、書道 4/6(4)	数学 3/4(1)
			家庭基礎 4/4(2)
01/12	水	美術、書道 6/6(4)	英語 8/8(4)
		地歴公民 3/4(1)	

学校生活への支援

- ・ **保健室**：養護教諭配置（専任）
- ・ **カウンセリングルーム**：スクールカウンセラー配置（非常勤・スクリング実施日）
- ・ **図書室**：図書司書配置（非常勤・図書室開室日）

*ソーシャルワーカーの配置なし

*8/10減免措置は実施していない



保健室



カウンセリングルーム

学習指導要領改訂（高等学校2022年度より）

学んだ力 → 「学びに向かう力」

資質・能力（観点別評価として3観点に整理された）

- ① 「知識及び技能」
- ② 「思考力，判断力，表現力等」
- ③ 「学びに向かう力，人間性等」 → 「主体的に学習に取り組む態度」

授業改善

- ① 個別最適な学び（指導の個別化・学習の個性化）
- ② 協働的な学び



通信制の学習形態において、どのようにして実現するのか

学習形態ごとの指導内容（検討段階）

	指導内容（分類）
高校通信教育講座	知識・技能の習得を主体としつつ、思考力を高め、人間性・知的好奇心を涵養する内容で講座を構成する。
添削指導（レポート）	知識・技能の習得を主体、思考・判断・表現力を高める。 [教科書・講座にない設問への解答から、思考力や主体性を育む] 添削・補充課題等で指導の個別化を推進。
面接指導（スクーリング）	知識の習得を主体とする学習形態からの移行 思考・判断・表現力、主体的な取り組みを養成 学習の個性化（学習を深め、広げる）協働的な学び [発表形式や、スクーリング時の小レポート活用など]
期末試験	知識・技能を主体としつつ、思考・判断・表現を問う設問も設ける。
面接指導 （実技科目など試験なし）	知識・技能の習得とともに思考・判断・表現力、主体性を育む

『個別最適な学び』
全日制と比べその実現性はより高いのではないか

望星の教育として大切にしていること

1. 可能な限り広く選択の機会を設ける



- ・幅広い履修科目の選択（**必修科目**以外の開講） 数学Ⅲ・コミュ英Ⅲ・物理・化学・生物
- ・スクーリング実施回数、ホーム学習など**登校頻度**の選択
- ・行事・部活動・生徒会活動など単位修得に関わらない活動の選択
- ・校外行事、学校設定科目等による自由参加型の**校外活動**への選択



 望星の教育として大切にしていること

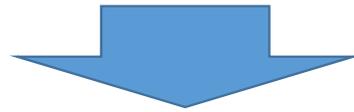
と

2. 手を差し伸べすぎないようにする。

- ・ 最初から支援ありきの指導は行わない。
- ・ 「通信制の生徒だからできない」という先入観をもたない。

個別の対応

生徒ひとりひとりの状況をしっかりと見続ける



**「自ら学び、自ら考える」
実現に向けて**

望星の教育として大切にしていること

3. ^と個別の指導をすすめるために **クラス単位で担任を配置**
 - ・ 生徒・保護者との日常的なコミュニケーション
 - ・ 三者面談・保護者会の定期的な実施
 - ・ 学習状況だけではない、生活全般から捉えた教育

4. クラスが1つの**コミュニティ**としたい（対人による関係）
 - ・ 部活動や生徒会活動等でのコミュニティも同様

課題 技能教育施設に関して

技能教育制度は、高度な専門的知識・技能の習得と、高等学校教育により、**広い視野を身に着けたスペシャリストを育成**する、有効な教育制度である。

なによりも生徒が3年間で大きく成長することが、自身で実感でき、**自己肯定感を育む**ことが期待できる制度である。

【課題】

- ・ 社会的な周知がまだまだ不十分で、理解度が低い。
- ・ 保護者(生徒)は専修学校、高等学校との**二重の学費負担**となっている。
- ・ 専修学校の施設は、都道府県の認可基準に則り設けられているため、問題はないが、**ICT教育環境の充実**などについては、十分な財政的支援が得られていないため、立ち遅れている状況が多い。

課題 通信制高等学校の教育に関して

【課題】

- ・ 全日制とほぼ同程度の教職員数ならびに施設・設備が必要と思われる。
(適切な施設設備・教職員数とは)
 - ・ 学習・単位修得を越えた、成長を促す教育の推進（人間性の涵養）
 - ・ 学習支援を要する生徒が多く在籍。学習サポートを行うしくみ、要員が必要
 - ・ 登校支援を要する生徒が多く在籍。養護教諭・カウンセラー・ソーシャルワーカー等の配置。
- ・ 全日制と比べ通信制高校の学費は、総じて低額であるため、**学校経営上の課題**を抱えている場合が多いと思われる。

おわりに

- ・ 不断の教育改善が必要。
- ・ 教育効果についての検証が不可欠。

そのために 「地域社会との連携」
「教育活動等に関する情報公開」
「第三者評価」の導入 が有効と考える。

本校は2020年度に「NPO法人全国通信制高等学校評価機構」
を受審。評価を受け、また受審に際して自己点検を実施して、
新たな気づきを多くえることができた。改善へとつなげたい。